

28年9月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成28年9月1日～ 28年9月10日

2. 調査実施方法

全国の木材チップ工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
9月分の回答企業数は11社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) チップ用国産原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		28/9月	10月	11月
入荷動向	スギ・ヒノキ	△ 20.0	△ 20.0	△ 20.0
	マツ	△ 30.0	△ 30.0	△ 25.0
	広葉樹	△ 18.2	△ 18.2	△ 18.2
消費動向	スギ・ヒノキ	△ 38.9	△ 22.2	△ 33.3
	マツ	△ 22.2	△ 22.2	△ 27.8
	広葉樹	△ 25.0	△ 15.0	△ 5.0
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 44.4	△ 38.9	△ 27.8
	マツ	△ 33.3	△ 27.8	△ 33.3
	広葉樹	△ 25.0	△ 15.0	△ 20.0

・チップ用国産原木の入荷、消費及び在庫は3ヵ月連続して減少。

(2) チップ用国産原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	28/9月	10月	11月
スギ・ヒノキ	0.0	0.0	0.0
マツ類	0.0	0.0	0.0
広葉樹	△ 5.0	0.0	0.0

・チップ用国産原木の購入価格は、スギ・ヒノキ及びマツ類は3ヵ月連続して横ばい。広葉樹は9月の弱含みが、10月、11月は横ばいに。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

・針葉樹は、再生事業の増加やシステム販売材の入荷により、入荷増が見込まれる。広葉樹は天候の悪化や再生事業への業者移動により減少気味。在庫はスギ横ばい、マツ、広葉樹は減少(東北)。
・国有林からのパルプ材の入荷が若干増加。製紙会社の使用量が減少している(中部)。
・買材が80%のため、8月は特に広葉樹の入荷がやや減少、消費、在庫がやや減少で9月にも影響等が予想される(中国)。
・気候もよくなり出材が増える。受注状況が変わり、針葉樹構造用合板は減産、広葉樹は原木に余裕がなく受注量に応じれない。今月までは入荷の急増がないので、原木は減少。10月は増減なし。11月は製紙会社の点検月で生産減により丸太在庫は増える(九州)。
・仕入状況に応じた生産(九州)。

(原木価格)

・針葉樹は燃料用向けが上昇気味だったが、現在は高値安定。広葉樹は変わらず(東北)。
・変動なし(中国)。
・変わらない。九州南部では、原木価格が下がった(九州)。

28年9月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 木材チップの荷動き動向 Weight. D. I.

品目		28/9月	10月	11月
生産 動向	スギ・ヒノキ	△ 25.0	△ 12.5	△ 25.0
	マツ類	△ 22.2	△ 22.2	△ 27.8
	広葉樹	△ 11.1	△ 10.0	0.0
出荷 動向	スギ・ヒノキ	△ 27.8	△ 11.1	△ 22.2
	マツ類	△ 20.0	△ 15.0	△ 20.0
	広葉樹	△ 9.1	△ 13.6	△ 4.5
在庫 動向	スギ・ヒノキ	△ 42.9	△ 28.6	△ 35.7
	マツ類	△ 37.5	△ 31.3	△ 31.3
	広葉樹	△ 37.5	△ 31.3	△ 31.3

・木材チップの生産、出荷及び在庫は総じて3ヵ月連続して減少。

(2) 木材チップ出荷価格動向(自社サイロ下渡し)W

品目	28/9月	10月	11月
スギ・ヒノキ類	△ 6.3	0.0	0.0
マツ類	0.0	0.0	0.0
広葉樹	0.0	0.0	0.0

・木材チップの出荷価格はスギ・ヒノキ類が9月に弱含みであるが、それ以外は3ヵ月連続して横ばい。

モニターからのコメント

(木材チップ荷動き)

- ・広葉樹は入荷量の減少に伴い、出荷はやや減少(東北)。
- ・7月より製紙会社の使用量が減少して推移している(中部)。
- ・買材が80%のため、8月は特に広葉樹原木の入荷がやや減少、生産、出荷、在庫がやや減少で9月にも影響等が予想される(中国)。
- ・製紙用は針葉樹、広葉樹共に減産気味の受注。11月は定期点検月。チップ在庫はない(九州)。
- ・原木入荷に応じた生産(九州)。広葉樹の出荷は翌月からやや増加(九州)。

(木材チップ価格)

- ・特に変更なし(東北)。
- ・一部製紙会社で価格の調整を行っている(高値の調整で、全体的な見直しではない)(中部)。
- ・変動なし(中国)。
- ・変わらない(九州)。
- ・広葉樹、現状維持(九州)。